

11月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
みかん類	21,812	106	21,430	244	94	218	0	0.0	愛媛、熊本、長崎産中心。極早生種は厳しい販売が続き、回復していない。10月末より早生種入荷始まるが、極早生種との併売となる見込み。価格は低迷したが、厳選品の価格はしっかりしていた。9月以降の好天により早生種の食味は改善すると思われる。入荷量は前年のやや増、価格は前年をやや下回る見込み。
りんご類	7,882	109	8,275	275	93	257	2,407	30.5	青森、山形、長野産中心の入荷となる。中生品種は販売苦戦がつづいた。入荷のペースが順調なため価格回復のきっかけがつかめないまま、晩生品種へ移行すると思われる。不振の原因は中生品種数が多く集中販売ができなかったこと、他品目が豊作であったこと、店頭売価が昨年からの高値を継続したことなどあるが、過去数年類を見ない不振であった。11月からのふじで販売環境が変わることを期待したい。
かき類	7,051	103	7,454	275	96	248	434	6.2	新潟、奈良、福岡産が中心となる。豊作基調で着色も早く、9月からの渋柿は潤沢入荷であった。11月からは「富有」が本格入荷されるが、夏の天候不良による正品率の低下が懸念される。価格は前年をやや下回るものの、安定した価格推移となる見込み。
西洋なし (ラ・フランス)	1,158	80	1,138	328	104	304	1,139	98.4	今年は西洋なし全般の食味が良く、食べ頃の判断を間違えなければ美味しくいただける。食べ頃について、消費者に教えながら販売するのが理想だが、せめてポップなどで語りかけるようにすること。「ラ・フランス」は不作気味で出回り不足から入荷減、価格高を予想している。
いちご類	664	96	579	1,637	98	1,631	0	0.0	栃木産が約6割を占め、福岡、静岡、佐賀産などが入荷する。苗定植も順調で、台風の被害も特に見られない。「とちおとめ」の遅れや「紅ほっぺ」の前進など、例年と異なる動きがあるが、11月中旬からは「あまおう」「さがほのか」の入荷始まり、下旬にはまとまった数量がそろそろ見込み。全国的な作付減のため入荷量は前年を下回り、価格は安定しているがやや安めに推移する見込み。